
俺の目指す人

クロウサギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺の目指す人

【Nコード】

N3867M

【作者名】

クロウサギ

【あらすじ】

鋼の錬金術師。エドとウィンリーの1人目の子供が生まれたときのお話です。

(前書き)

アニメでも、漫画でも、エドとウィンリイの間に、子供ができてましたよね。

その1人目の子供が生まれたとき、エドは何を思ったのだろう。

そう考えて、この作品はうまれました。

あきらかなる改造です。

子供の名前、ダサイですが、ネーミングセンスゼロなもので…。

でも、ホークアイよりかは、センスあると思います。

研究がひとまず落ち着き、ウィンリイと結婚をした。

「ちよつとエド…、話があるんだけど…?」

そんなある日、俺とアルが家へ帰ってくると、深刻そうにウィンリイが俺を呼んだ。

「…なんだ?話って、何かあったのか?」

「うん。…あのね、子供が…出来たみたい。」

「…ども…?」

子供って、アノ子供だよな。

「お、俺たちの???」

「馬鹿ね。エド以外の誰が父親だって言うのよ。」

「…そつか、そつか、俺達の!」

俺達の子供。

俺は嬉しくなつて、涙がでそうになった。

「絶対、産んでくれよ、俺達の子供!」

「あはは。あたりまえでしょっ。」

バシツといつものように背中を叩かれる。

それさえも嬉しい(別にドMとかじゃねえぞ?)

それから月日が経ち、ついに子供が生まれた。

「んぎゃっ、んぎゃっ。」

金髪青目の元気な男の子。

「…俺の…子。」

「…ん、抱っこしてあげて、エド。」

そう言つてウィンリイは、疲れきった腕で、赤ん坊を俺に差し出した。

抱っこすると、思っていた以上に思い。

…命の重み。

「よし、今日からお前は、ジュランだ！」

「ちよつと、やだエド！変な名前つけないでよ！」

「な、なに？変か？」

「変よ！エドはセンスないんだからッ。」

「かーっ。だったらウインリイ、決めてくれ。」

ウインリイが少し微笑む。

「ホエリーンなんて、どう？」

「なんだ、ださいな。」

「ホーラは？」

「んー。ましかな。っーか、なんでホにこだわるんだ？」

「…エドのお父さんみたいな、素敵な人になってほしいから。」

「…くそ親父のホかよ。」

「ダメ？」

ダメなわけがない。

確かにクソ親父は、母さんを待たせた。

でも結局、誰よりも俺達を心配してくれた。

あんな良い親父が居るわけがない。

「…あんなうぜえ奴にならねーように、教育しねえとな！」

「そうだね。」

数日後、ウインリイと一緒に、ホーラを抱いて、クソ親父と母さんの墓へ行く。

もちろんホーラには厚着をさせて。リゼンブールの夜は冷えるからな。

「おい、クソ親父、母さん。俺と…ウインリイの子供、ホーラだ。」

「まだクソなんてつけてるの？」

「いいだろ？」

「ほえっ…んぎゃっ、んぎゃ。」

「おお？…泣くな、泣くな。」

泣き出すホーラを必死に俺はなだめようとする。

「あー。もう、かして。」

ウィンリイは俺の腕からホーラを受け取り、なだめる。
すると、ホーラは急に静かになった。

「…俺は、コイツの良い父親になれるのかな。」

ホーエンハイムは、良い父親だった。

でも俺は、あいつみたいになれるのかな。

「大丈夫よ、エド。」

「でもよ、」

「だって、エドが出来ないことは、私がすれば良いんでしょう？ 苦手な事、やってあげるから、私の苦手な分野はやってよね。これ、等価交換よ？」

等価交換…。

できるかな、俺に。

「大丈夫、出来るさ。」

「エド、あなたはこの人の息子でしょう？」

幽霊なんて、非科学的なもの、信じてはいないけど、クソ親父と母さんの声が聞こえたような気がした。

「…そうだよな。俺は、クソ親父の息子だ。」

ウィンリイと俺、2人でなら、なんとかなるはずだ。

父親なんか、すぐ追い越す程立派な親父になってみせる。

俺は誇るべき、ヴァン・ホーエンハイムの息子なんだから。

空で、親父が笑った気がした。

(後書き)

読んでいただき、ありがとうございます。

ぐんぐんですが、がんばりました。

感想・評価くださると、うれしいっす。

ホント、読んでくれてありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3867m/>

俺の目指す人

2010年10月8日23時55分発行